

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑳

- 女性 / 27 歳
- 職業/年次： Web フリー
- 居住エリア： 渋谷区
- 居住形態： 一人暮らし
- 奨学金： なし
- 2026年 GW の計画： 国内：熱海（ワーケーション） / 10 万
- 2026年 夏休みの計画： 海外：フランス（長期滞在）

<結果サマリー>

感性の鈍化を防ぎ、自らの市場価値を維持するための「自分という OS」を更新する投資

1. 導入

根拠： 渋谷区で一人暮らしをする 27 歳の Web フリーランス。年収約 800 万円、家賃 16 万円。会社員時代の長時間労働から脱却し、仕事とプライベートが地続きの生活を送る。ピラティスや北欧ヴィンテージ家具への投資など、自身の「心地よい空間」と「身体的メンテナンス」を重視している。

推論： 家賃やインテリアへの支出は単なる見栄ではなく、24 時間仕事と隣り合わせの環境において、精神的安定とアウトプットの質を担保するための「必要経費」と捉えている。生活のすべてが仕事のパフォーマンスに直結するという、フリーランス特有のストイックな合理性が行動原理の根底にある。

FD： 対象者にとっての日常は、常に「自己の資本価値を最大化するための調整」の場であり、消費行動の多くが「投資」としての意味合いを帯びている。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠： GW は熱海で「仕事効率とリフレッシュ」を両立させる 3 泊 4 日のワーケーション（予算 10 万）。夏はフランスで「住むように過ごす」2 週間の滞在（予算 100 万）。100 万円は年収の 1 割を超えるが、マイル活用や現地での自炊を組み合わせることで実現しようとしている。

推論： 「混雑を避ける」「移動時間を仕事に充てる」など、時間の損失を極端に嫌う。一方で、フランス旅行を「20 代の感性でしか得られない仕入れ」と定義し、高額な支出を正当化している。物価高の影響で「なんとなくの移動」を排除し、一回あたりの滞在の「密度」と「目的」を先鋭化させている。

FD： 2026 年の 20 代高所得層において、旅行は「余暇」から「自己アップデートのための戦略的移動」へと変質している。円安等の制約は、旅行を断念させる理由ではなく、むしろ一回の旅行に対する「費用対効果（感性の仕入れ効率）」をシビアに吟味させるバイアスとして機能している。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：旅行を「OSのインストール（海外での刺激）」と「アプリの削除（何も無い場所でのリセット）」と表現。デジタル旅行や青春18きっぷには否定的。2026年現在の制約下でも「現地の匂いや空気感」という解像度の高い体験だけは譲れないとし、そのために家賃を下げることで選択肢に入れている。

推論：情報過多な渋谷での日常に対する「平均化への恐怖」が、彼女を移動へと突き動かす強い動機となっている。デジタルで代替可能な情報は価値を失い、身体性を伴う一次情報への渴望が深まっている。制約が増すほど、本質的でない支出を削り、独自の感性を守るための「聖域」としての旅行にリソースを集中させる傾向にある。

FD：対象者にとって旅行は「自分を使い物になる状態に維持するためのメンテナンス」であり、生存戦略そのものである。社会的な経済制約は、彼女の「個としての独自性」を守るための選別眼をより冷徹に研ぎ澄ませる結果となっている。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：年収の1割を投じる海外旅行を「仕入れ」と呼び、情報の遮断を目的とした島旅を「デフラグ（最適化）」と捉える一貫した姿勢。

推論：2026年という不透明な時代において、彼女は「所属」や「貯蓄」ではなく、「移動による自己のアップデート」にのみ確信的な価値を見出している。その行動原理は、外部環境の変化に左右されない「個としての強度」を保つための自己防衛本能に近い。

FD：この対象者に見られるのは、旅行をレジャーとしてではなく「自己資本のメンテナンス・増強プロセス」として組み込む、極めて合理的な新人類的価値観である。制約を悲観せず、むしろ「価値の選別」の機会と捉える姿勢は、インフレ時代の高感度層における一つの適応形態を示唆している。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお時間をいただき、ありがとうございます。今日はいろいろなお話をお伺いできればと思っています。リラックスしてお答えいただければ幸いです。

まずは自己紹介も兼ねて、今どのような生活をされているのか教えていただけますか？お住まいのエリアやご家族のこと、お仕事のことなど、お話しいただける範囲で構いません。

【対象者】 あ、よろしくお願いします。えっと、今は渋谷区の代々木公園の近くで、一人暮らしをしています。年齢は27歳です。

仕事はフリーランスでWeb系の制作とかデザインのディレクションをやっていて、基本的には家とか、近くのカフェで作業することが多いですね。会社員時代から自炊はあまりしないタイプだったんですけど、最近は特に物価も上がってるし、渋谷界限だとランチも普通に2,000円くらいしたりするので、デリバリーとか外食の回数を少し調整しつつ、うまく回してる感じです。

【インタビュアー】 ありがとうございます。代々木公園の近くでフリーランスをされているんですね。普段の休日はどのように過ごされていることが多いですか？最近ハマっていることなどがあれば、併せて教えてください。

【対象者】 休日は……実は仕事とプライベートの境目があんまりなくて。でも、意識的に休みを作るときは、展示を見に行ったり、友達と新しいビストロを開拓したりするのが好きですね。

最近ハマっていることと言われると、ピラティスですかね。週に2回くらい通ってるんですけど、ずっとPCの前にいるので、体を動かさないと精神的に持たないというか（笑）。あとは、SNSで海外のクリエイターのルームツアー動画を見るのが好きで、自分の部屋のインテリアを少しずつアップデートするのを楽しんでいます。

【インタビュアー】 仕事とプライベートが地続きな生活の中で、ピラティスや展示、インテリアなどが良い切り替えになっているんですね。今おっしゃった「自分の部屋のアップデート」というのは、具体的に最近どのようなことをされたんですか？

【対象者】 最近だと、少し高かったんですけど、北欧のヴィンテージのランプを買いました。円安のせいかな、以前見た時よりかなり値上がりしていて迷ったんですけど……。でも、一日の大半を過ごす場所なので、そこに妥協すると仕事のモチベーションが下がる気がして。結局、今の自分にとって「心地よい空間」への投資は、削れない項目なんだと再確認しました。

【インタビュアー】 「会社員時代」とおっしゃっていましたが、その時はどんなお仕事をされていたんですか？またフリーになられて今年目くらいになりますか？

【対象者】 会社員時代は、大手の広告代理店でクリエイティブの進行管理をしていました。3年くらい働いたんですけど、とにかく労働時間が長くて……。自分の時間が全く取れないことに違和感を感じて、思い切って独立したのが3年前です。なので、フリーランスとしては今4年目に入ったところですね。

最初は必死でしたけど、今はある程度固定のクライアントさんもできて、ようやく自分のペースで仕事と生活を組み立てられるようになってきたかな、という感じです。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 ありがとうございます。フリーランスとしてお仕事を軌道に乗せつつ、ご自身の生活空間も大切にされている様子が伝わってきました。

さて、ここからは今年の大連休の過ごし方について伺いたいのですが、まず今年のゴールデンウィークや夏休みに、どこかへ出かける計画は立てられていますか？

【対象者】 はい、一応どちらも予定は入れています。GWは熱海に行く予定です。ただ、純粋な旅行というよりは、半分仕事も持っていく「ワーケーション」みたいな形ですね。夏休みは、少し長めに休みを取ってフランスに行こうと思っています。こちらは完全にプライベートのつもりですけど、向こうでも少しはPC触るかな、という感じです。

【インタビュアー】 GWは熱海、夏休みはフランスなのですね。まず、間近に迫ったGWの熱海について詳しく伺いたいのですが、具体的に「いつからいつまで」「どういった手段」で行かれる予定ですか？宿や現地での過ごし方なども決まっていれば教えてください。

【対象者】 GWは、カレンダー通りの休みというよりは、少しずらして5月中旬くらいに3泊4日で行こうかなと。混んでる時期は避けたいので。移動は新幹線です。宿は、熱海駅からは少し離れた、高台にある一軒家貸切の民泊を予約しました。Wi-Fiがしっかりしていて、海が見える大きなデスクがあるところを選んでます。基本的には午前中から昼過ぎまでしっかり仕事をして、夕方から夜にかけては近くの温泉に行ったり、地元の美味しそうな居酒屋を探したり、という過ごし方をイメージしています。

【インタビュアー】 混雑を避けて、5月中旬に3泊4日新幹線、宿は仕事環境重視の民泊ということですね。今回、GWの行き先として「熱海」を選び、かつ「宿で仕事をする」というスタイルにしたのは、どういった理由や経緯からでしょうか？

【対象者】 うーん、理由はいくつかあるんですけど、一番は「環境を変えないと煮詰まるから」ですね。最近ずっと都内の自宅にこもっていたので、視界に海が入るだけでもアウトプットの質が変わる気がして。熱海を選んだのは、東京から新幹線ですぐ行ける「近さ」と、最近熱海って古い建物をリノベした面白いお店が増えていて、クリエイティブな刺激ももらえそうだなと思ったからです。あと、一人でもあんまり浮かないというか、程よい放っておかれ感があるのもいいなと。

【インタビュアー】 「煮詰まり」を解消するための環境変化と、移動の利便性、そしてクリエイティブな刺激がポイントだったのですね。ちなみに、この熱海の計画を立てる際、予算や費用についてはどのように考えられましたか？ 普段の生活費とのバランスや、何か「本当はこうしたかったけど、ここは我慢した」というようなことがあれば教えてください。

【対象者】 費用は、3泊4日の宿泊費と移動費、現地での食費を合わせて、だいたい10万円くらいに収まればいいかなと考えています。正直、宿についてはもっと「ザ・高級旅館」みたいな、上げ膳据え膳のところもいいなとは思ったんです。でも、そうすると一泊5~6万とかしちゃうじゃないですか。仕事もしなきゃいけないのに、そんな高いところに泊まってPC叩いてるのも勿体無いなと思って。今回は「仕事の効率」と「リフレッシュ」のコスパを考えて、一軒家貸切のスタイルに落ち着きました。その分、夜のご飯だけは妥協せずに、自分が本当に行きたいお店を予約しようと思っています。

【インタビュアー】 ちなみに、その「予算をかけても行きたいお店」というのは、具体的にどういった基準で探されているんですか？

【対象者】 そうですね……。SNS、特に Instagram で保存しているリストから選ぶことが多いです。ただ、「映え」だけじゃなくて、シェフのこだわりがちゃんと伝わってくるような、少しエッジの効いたビストロとか、地元の魚を意外な食べ方で出してくれるお店とか。「わざわざ熱海でこれを食べる意味」がある場所に行きたいんです。単に高いだけの旅館のコース料理だと、どこで食べても同じ気がしちゃって。

【インタビュアー】 なるほど。「そこに行く意味」を重視されているんですね。では、次に夏休みのフランス計画についても詳しく伺いたいのですが、こちらは「いつ頃」「どのくらいの期間」で、どのような滞在を予定されているのでしょうか。

【対象者】 夏休みは、8月末から9月にかけて2週間くらいで行く予定です。行き先はパリを拠点にして、数日は南仏の方にも足を伸ばそうかなと。今回は「旅行」というより「住むように過ごす」のがテーマなので、ホテルじゃなくてキッチン付きのアpartマンを借りる予定です。移動は、マイルが貯まっているのでそれを使って航空券を取るつもりですが、燃油サーチャージが本当に高く……。そこは結構痛い出費ですね。

【インタビュアー】 2週間のアpartマン滞在、素敵ですね。そのフランス旅行をこの時期、このプランに決めた理由は何ですか？また、移動や宿泊、現地での過ごし方で「ここだけは譲れない」と重視しているポイントがあれば教えてください。

【対象者】 理由は、今の仕事のスタイルになってから「どこにいても働ける」という実感が持てたので、一度長期で海外に出て、自分の感性をアップデートしたいと思ったからです。27歳という年齢もあって、今のうちに外の世界を見ておかないと、この先どんどん腰が重くなりそうで。重視しているのは「現地の日常に溶け込むこと」です。観光名所をスタンプラリーみたいに回るんじゃなくて、朝起きてマルシェで買い物して、アpartマンで料理して、午後はカフェで仕事したり本を読んだり。ネットで見える情報じゃなくて、自分の肌で感じる空気感にお金を使いたいと思っています。

【インタビュアー】 「感性のアップデート」と「日常への没入」がキーワードなのですね。フランスとなるとかなりの金額になると思いますが、費用についてはどう捉えていますか？ 普段の生活費を削ってでも捻出するものなのか、あるいは別の考え方があるのでしょうか。

【対象者】 正直、かなり思い切った投資です。円安の影響で現地での生活費もバカにならないです。普段の生活では、コンビニは極力使わないとか、サブスクを見直すとか、細かい節約はしています。でも、それはこの「フランスでの体験」を買うためだと思えば苦じゃないというか。私にとって、旅行は「浪費」じゃなくて、フリーランスとして生き残るための「仕入れ」に近い感覚なんです。ただ、当初は全部外食にするつもりでしたけど、今のレートを考えて「1日1食は自炊」にしないと予算オーバーになるので、そこは現実を見て調整（我慢）しましたね。

【インタビュアー】 「仕入れ」という言葉が印象的です。今回のGW（熱海）と夏休み（フランス）の計画を比較すると、近場と遠出でかなり差がありますが、この2つのバランスについては意識的に考えられましたか？

【対象者】 はい、意識しました。GWはあくまで「日常の延長でのリフレッシュ」で、予算も時間も抑えめにして。その分、夏休みに全力を注ぐというバランスです。以前（2025年）までは、連休があ

るたびに「どこか行かなきゃ」と焦って、中途半端な国内旅行を繰り返していた気がします。でも、物価がこれだけ上がると、一回一回の質を高めないと満足度が低いことに気づいて。

【インタビュアー】 2025年と比べて、意識的に変えたことや、変えざるを得なかった部分は他にもありますか？

【対象者】 「なんとなくの移動」をやめました。去年までは「新幹線が空いてるから行く」みたいな感じもありましたけど、今はチケット代も高いし、宿代も跳ね上がっている。「なぜ今、ここに行くのか？」という理由が自分の中で明確じゃない旅行は、今の私には贅沢すぎるというか、もったいないと感じるようになりましたね。結果的に、回数は減ったけど、一回あたりの滞在期間を伸ばして深く味わう方向にシフトしました。

【インタビュアー】 フランス旅行の予算についてですが、具体的に総額でおいくらくらいを見込んでいますか？また、その予算を捻出できる現在の年収についても、差し支えない範囲で教えてくださいませんか。

【対象者】 そうですね、お金の話はリアルですよ。フランスは、航空券のサーチャージと2週間のアパートマン代、それから現地での移動や食費もろもろ合わせて、最低でも80万円から100万円くらいは見ています。正直、今の円安だと100万円でも足りるか不安なところはあるんですけど。年収は、今はだいたい800万円前後です。フリーランスなので月によって波はありますが、手取りで考えると、このフランス旅行は自分の年収の1割以上を注ぎ込む計算になりますね。

【インタビュアー】 100万円規模の予算を、年収の約1割を充てて計画されているのですね。その「100万円」という金額をフランスに投じることに對して、ご自身の中で迷いや抵抗感はありませんでしたか？

【対象者】 迷いが無いと言えば嘘になります。100万あれば、もっと堅実に投資に回したり、家具を全部新調したりもできますし。でも、20代のうちにしか感じられない感性って絶対あると思っていて。30代になってから行く100万円の旅行と、今の私が行く100万円の旅行では、仕事へのフィードバックも含めて価値が違う。そう自分に言い聞かせて、一種の「経費」として割り切っています。

【インタビュアー】 さらに立ち入ったことを伺いますが、現在のお住まいの家賃は、月々おいくらくらいなのでしょう？

【対象者】 あ、家賃ですか。代々木公園のすぐ近くで、築年数はそこそこあってるんですけど、リノベーションされている物件で、今は管理費込みで16万円です。

フリーランスになってから、家は単に寝る場所じゃなくて「オフィス」でもあるので、そこは少し背伸びしてでも環境を整えようと思って決めました。ただ、やっぱり毎月の固定費としては小さくないので、その分、外食の回数を調整したりして、なんとかやりくりしている感じですね。

【インタビュアー】 ありがとうございます。もう一つ、熱海もフランスも、お一人で行かれるご予定のようですが、お友達やパートナーと行くという選択肢は考えなかったですか？

【対象者】 あー、そうですね。選択肢になかったわけじゃないんですけど、今回は最初から一人で行くつもりで動いていました。

友達と行くのも楽しいんですけど、やっぱり「仕事も兼ねる」となると、相手に気を遣わせちゃうじゃないですか。私がPC開いてる間、相手を待たせるのも嫌ですし。あと、フランスに関しても、さっき言った「住むように過ごす」という感覚を大事にしたかったので、誰かと一緒だとどうしても「観

光」のテンションに引っ張られちゃう気がして。

今の私にとっては、自分のペースで、自分の見たいものだけを、見たいタイミングで見るという時間の使い方が、何よりの贅沢なんです。もちろん、現地で誰かと合流して一晩だけ飲むとか、そういうのはアリかなと思ってますが、基本は「個」で動く自由さを優先しました。

【インタビュアー】「観光」のテンションに引っ張られず、自分のペースを守ることを優先されたのですね。ちなみに、周囲のご友人などは、長期の休暇を誰かと過ごされる方が多いのでしょうか。そういった周囲の様子とご自身を比べて、何か感じることはありますか？

【対象者】 周りは……そうですね、結婚したり同棲したりしてる子が多いので、基本はパートナーと旅行に行ってる子がほとんどです。SNS を見ると「いいな」って思う瞬間もゼロじゃないですけど、でも彼女たちの話を聞くと「行き先で揉めた」とか「相手の機嫌を伺って疲れた」みたいな話もよく聞くので（笑）。

物価も上がってるし、円安だし、決して安くはないお金を払って行く旅行で、誰かに合わせて妥協したくないっていう気持ちがある、今の私には強いんだと思います。ちょっと自分勝手かもしれないですけど、今は「自分のための投資」としての旅行を完遂したい、という感じですね。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 これからのことについても伺わせてください。今後、具体的にやってみたいと思っている旅行のスタイルや、行き先はありますか？

【対象者】 そうですね……次は北欧に行きたいと思っています。今回フランスを選んだのもそうなんですけど、やっぱりデザインの仕事をしているので、本場の建築とかテキスタイルに触れたくて。あとは、もっと何もなかったところ、例えば瀬戸内海の島とかで1ヶ月くらい、本当にPC1台だけで生活するようなこともやってみたいです。

【インタビュアー】 北欧や瀬戸内での長期滞在ですね。少し視点が変わりますが、「青春18きっぷ」を使って時間をかけて移動するような旅行や、あるいは最近のYouTubeでの絶景動画、イマーシブ型の疑似体験といった「デジタル旅行」については、どう感じられますか？

【対象者】 「18きっぷ」は、今の私にはちょっと選択肢にないですね……。学生の頃なら「安さ」が正義でしたけど、今は移動時間も仕事に充てられるし、何より体が疲れちゃう。時間はお金で買いたい派です。「デジタル旅行」は、あくまでリサーチの道具かな。YouTubeで予習はしますが、それで「行った気」にはなれないです。私にとっての旅行は、現地の湿気とか、街の匂いとか、そういう「解像度の高い体験」がすべてなので。画面越しじゃ、自分の感性は動かない気がします。

【インタビュアー】 「解像度の高い体験」こそが重要だということですね。では、改めて伺います。今のあなたにとって「旅行」とは何でしょうか？ご自身の人生や生活の中で、どのような位置づけのものですか。

【対象者】 一言で言うなら、「自分をアップデートするための投資」です。渋谷での日常も好きですけど、どうしても同じような情報の繰り返しになりがちで。全く違う環境に身を置いて、自分を強制的に「外側」から見る機会を作らないと、クリエイターとして枯れていっちゃう気がするんです。だから、単なる娯楽っていうよりは、これからも生きていくための「ガソリン」に近いかもしれません。

【インタビュアー】 「ガソリン」としての投資、という位置づけですね。ただ、2026年現在は物価の上昇や社会保険料の負担増など、経済的な制約も強まっています。今後、こうした状況の中で、ご自身の「旅行」はどうなっていくと予想されますか？

【対象者】 正直、もっと二極化していくと思います。「こうしたい」という要望としては、さっき言ったみたいに海外に長期で行きたいですけど、現実には……航空券代が今の倍とかになったら、回数はもっと減らさざるを得ないですよ。たぶん、3年に一度の「本気の海外」と、あとは国内でいかに安く、でも質を落とさずに過ごすか、みたいな工夫を極めていくことになる気がします。

【インタビュアー】 その「回数が減る」「工夫を極める」というご自身の予想に対して、今、どう感じていますか？

【対象者】 「あ、厳しい時代になったな」とは思いますけど、悲観はしてないです。むしろ、制約があるからこそ「本当にそこに行く価値があるのか？」を真剣に考えるようになるので。昔みたいに、インスタで流れてきたからなんとなく行く、みたいな薄い旅行にお金を使わなくなるのは、自分にとっては健全な気もしています。

【インタビュアー】 そうした制約がさらに厳しくなったとしても、「これだけは譲れない」「これだけはやりたい」と思うことは何ですか？

【対象者】 「自分の目を見て、肌で触れる」ことですね。どれだけメタバースが進化しても、現地のカフェで隣に座った人の話し声とか、朝の空気の冷たさとか、そういう数値化できない体験だけにはお金を払い続けたいです。そのために日々の生活を切り詰める必要があるなら、家賃を安いところへ下げることだって、選択肢としてはあるかもしれません。

【インタビュアー】 今後やりたい旅行として、北欧や「何もないところ、たとえば瀬戸内の島」とおっしゃっていましたが、「何もないところ」をあえてやってみたい旅行としてイメージされるのは、どのような理由からでしょうか？

【対象者】 うーん……。今、代々木公園の近くに住んでいて、一見落ち着いた環境に見えるかもしれませんが、やっぱり渋谷エリアって情報の密度がものすごいんですよ。歩いているだけで広告が入ってくるし、常に「次はこれ」「最新はこれ」って急かされているような感覚がどこかにあるんです。

そういう「情報のノイズ」を全部シャットアウトして、ただ波の音を聞くとか、空の色が変わるのを眺めるとか、そういう極限までそぎ落とした環境に自分を置いてみたいんです。仕事も持っていきますけど、あえて不便な場所に行くことで、自分の思考がどう動くのかを試してみたいというか。

【インタビュアー】 「情報のノイズをシャットアウトする」ために不便な場所へ行く、ということですね。その「思考がどう動くかを試したい」というのは、具体的にどういう状態になることを期待されているんですか？

【対象者】 何か新しいアイデアを無理やり出すっていうよりは、余計なものを削ぎ落として、自分の中に残る「核」みたいなものを確認したいのかもしれない。普段、SNSとかで海外のトレンドとかを必死に追っている自分を、一度リセットしたいというか。

結局、何もない場所に行っても、たぶん自分はPCを開いて何か作ろうとすると思うんです。その時に、外からの刺激がゼロの状態でも「これを作りたい」と思えるのかどうか。それが、今の私にとって一番贅沢で、かつ必要な「実験」な気がしています。

【インタビュアー】 だとすると、フランスや北欧の旅とはまた別の意味を持つ旅なのでしょうか？それとも、本質的には同じ意味があると思いますか？

【対象者】 あー……。表面的な「やること」は全然違いますけど、本質的には同じだと思います。

フランスや北欧に行くのは「新しい OS をインストールしに行く」みたいな感じで、瀬戸内の島とかに行くのは「不要なアプリケーションを削除して動作を軽くしに行く」みたいな感覚というか。どちらも、今の自分を最適化して、クリエイターとして「使い物になる状態」を維持するために必要なプロセスなんです。

結局、代々木での日常のままだと、自分の感性がどんどん「平均化」されていく恐怖があるんですよね。だから、海外で強い刺激を浴びるのも、何もない場所で自分の内側を覗くのも、手段が違っただけで「自分の独自性を守るためのメンテナンス」っていう意味では、私の中では完全に一貫しています。

【インタビュアー】 「OS のインストール」と「アプリの削除」。どちらもご自身のクリエイターとしての機能を正常に保つための「メンテナンス」ということですね。

最後に、こうした「自分を守るための投資」としての旅行を続けていく上で、2026 年現在の社会状況……物価高や不透明な先行きに対して、何か不安に感じていることや、逆に「これがあるから大丈夫」と思えるようなことはありますか？

【対象者】 不安はもちろんあります。来年、再来年ってどんどん円の価値が下がっていったら、今年の年収を維持していても「外の世界」に触れるハードルはどんどん高くなっていく。それは自分の世界が狭まっていくようで、正直怖いです。

でも、だからこそ「どこでも働けるスキル」を磨き続けるしかないなと思っています。最悪、日本に住むのがコスト的に厳しくなれば、しばらく海外で稼ぎながら生活したっていいわけです。旅行を「消費」じゃなくて「仕入れ」や「メンテナンス」と捉えている限り、それを捻出するための努力は惜しまないと思います。自分への投資を止めた時が、フリーランスとして終わる時だと思っているので。

【インタビュアー】 本日は、貴重なお話をたくさんお伺いできました。ありがとうございました。